





巻頭の部分（江戸・日本橋）

口絵の解説

かんたん 邯鄲枕行脚五十三次繪巻

日本橋、品川から大津、京都までの東海道五十三次を描いた彩色摺り版行の繪巻。卷子装。藍摺りを基調にして、山々を淡い緑色、家の屋根を梔子色、太陽などを朱色、馬には茶色が施してある。口絵上段は藤沢・平塚・大磯・小田原、中段は池鯉鮒・鳴海・宮、下段は京の部分。

この繪巻には、各所にちなんだ発句が肉筆でき添えられている。巻末には芭蕉五世俳諧四郎餅字の跋があるが、奥付刊記はない。勅力庵□□という人の序があり、安永4年以前に刊行されていることが分かる。幅16.7cm、長さ1472cm。